

關卷驚奇俠客傳

第壹集

三

黒川金治郎

分毫

本所 中ノ郷竹町



河津氏

開卷驚奇俠客傳第壹集卷之三 (方金)

東都 曲亭主人編次

方金

第五回 木住の謁しと南將舊縁と感生 便宜と演々老尼村酒と薦む

却説新田貞方主の畑六郎二時種を従へ。千巻の城下は程遠くは福草村を過りぬ。これに這街盡頭は舊草の庵あり。左右を樹牆に折環らし。柴と小牌を掲て今日休と。とるたる。あを賣下。と口を鯛。小優婆塞。秋と。積る。の時。這蒼の養鶏多。黒と赤と三隻の雄鶏の穿をせ。一箇は。争ひ。堪む。あ。けん。頂毛。怒。起。距。揚。關。半。响。許。一。箇。是。谷。と。落。さん。と。一。箇。亦。暴。方。黄。熊。の。樹。一。來。一。往。虚々実々。紛々。と。散。す。拜。御。室。の。山。秋。風。極。葉。を。龍。泉。流。と。像。と。

本中之舞竹町 所貸本 黒川金次郎

去々蹴賜るは野作の存りて高濱の胡沙起雲の似るべし。此後共の衆冷む。
 片息あるもも。厚開かじりて。赤たの竟の挑難て辛く引外走ると柴山の
 内入りの黒たの海も逃下と。其地を好む。登時裡回ら老女声して。這畜生
 然之の所以を。南北西朝の和睦の後新田楠自餘の人々忠臣義士を弓
 折して。絶果たる似れども。西国中の菊池あり。東国中。新田あり。又伊勢
 北畠大和の越智伯耆名和或の武家。足利氏。小鉢を伏せ或の邊鄙の世を潜ひ
 中の中。新の伏。炭と吞親と。再義兵を起さんと。多少のるえや。俺泰
 鶏の闘戦。赤た。則南方。殘燼。黒た。則北方。水徳。既の時運。ゆるりたるも。後且
 勝負の料。ゆるりたる。那方。ざる。這地。来まると。あ。必俺大檀那の商量
 敵せられん。の。谷の。狙候。の水。の。月。の。を。柄。も。迹。も。存。薄。情。ま。ら。ち

吐てを。鶴。立。る。外。面。の。自。方。主。後。那。鶏。の。闘。戦。の。路。去。り。柴。山。の。頭。の。高。々。
 肉。せ。し。樹。牆。の。内。の。人。あり。獨。語。る。事。情。あり。其。獨。語。る。事。情。あり。退。て。畑。時。種。と。共。侶。の。
 樹。間。を。尋。て。闕。窺。ひ。甚。ま。ま。一。個。の。女。僧。の。齡。五。十。あり。る。兩。折。戸。の。陰。の。影。
 貞。方。主。時。種。小。目。と。注。一。又。退。て。答。る。事。あり。宣。言。す。殘。る。者。の。堪。え。不。可。這。草。菴。の。
 檐。下。を。借。り。憩。ふ。雲。時。汗。も。ま。ぐ。且。一。碗。の。水。を。之。渴。を。醫。ま。し。輸。り。し。呼。門。
 せ。と。急。ぬ。時。種。多。る。意。を。悟。り。現。宣。言。す。這。頭。の。總。て。野。田。の。憩。の。死。
 蔭。の。小。室。他。處。せ。概。る。牌。小。休。ト。と。あれ。賣。下。の。休。日。の。小。室。請。り。去。向。の。吉。凶。此。
 知。る。を。扱。り。び。や。の。先。々。と。の。ひ。も。柴。山。の。立。下。り。卒。介。さ。る。の。ま。う。の。小。室。主。
 従。の。旅。客。多。る。亭。午。の。秋。暑。者。の。路。去。り。あ。む。具。檐。下。の。憩。と。水。一。碗。の。飲。み。の。小。室。
 是。功。徳。の。小。室。の。受。を。憑。め。と。ま。る。人。の。仰。れ。は。ひ。の。小。室。主。の。小。室。主。の。小。室。主。
 蒼。て。を。尺。小。徐。小。門。邊。の。小。室。左。見。右。見。の。鐘。の。小。室。主。の。小。室。主。の。小。室。主。の。南

風土記 卷之三 何処へも去らぬ 主共侶の這方へ入る由も休む心も
 然主後の公允の引を引けり 裡面へ入る程の貞方主の立脱捨て先正
 屋縁縁頗る尻の拭きの庵主の女僧の近き其首の目景の近き
 とも草鞋を釋てやあ伴もの不々ぬ這首の背門より吹融せりと涼身はる
 喃々と眞実を管待親切を推辞せぬぬれぬ身してその意を任す主後
 存一草鞋を解く貞方主の正屋の頭へ坐せ占めぬ女僧を連の請
 薦めの上座を推の却る迹の時種を處らして爐の火を掻起し鑪子差を拵
 試み沃く茶碗の破焼と共に昔る二荒金兼棄せ温茶を吸せ誘之薦
 はあや能主後の飲ひを演々てそそびぬとや多く湯を醫けり且くと女僧の
 のき刀衿の何国より何処へも去らぬ千葉の城内の相識ありませり
 と向れて貞方より氣取く否千葉殿の城内の由縁とやありしや
 俺們的鎌倉の主後

二人で遊歴まされ真間の古蹟もなほ多く且宿願も六鹿嶋香取の兩社詣ん
 とこの旅あるから其菴主の賣下を生活あるあるや又甚多故小休との牌を
 門の柱に掛られけし其の旅客へけし吉凶を問ふある異日の再會料り巨多俺宿
 望の成就を遂げ成就せぬ願いの枉てり為の一算施しひてよと請れて女
 僧の眉根を髻めそそりて易をねがう賤尼が去るる錢下を著を數へ八卦の由
 る周易のめりあむとそそりあむあるはてしなく縁故を報するさん
 急にめりあむ賤尼のゆり時よりと親世立日と念下ありて並日門品と讀ゆるよ
 懈る日とそめられぬも過世てく良人を喪ひ賸獨子と先とてくよる死身あり一
 遂に頭髪を剃捨り這首の女僧を締むり彼此人の託鉢しく絶小口を餓ひひる素
 より田舎のひるれ身よりあがり願ひぬる廻国せんと思ひ折有一夕の夢を觀せ
 音の示現を被りぬり不思議を得る錢下の奇特ありて人の為その吉凶を

占ひ侍るふ十二銭より外に受ふほど十のりて十を當らしむるに日毎に請事
人ヨリ多きとて鐵も凍もせし例に世に安らふ渡れとせ人の人賤尼式錢下の
妙算比丘尼と喚做し。この錢下の起原の往昔支那漢の時京房の博識
錢六文とて吉凶禍福を口にしてありとせん一博識のめりたるも今その技
那土中を知らぬものも況這大皇國の及ばぬものも其叔の來りたるも
尼が自得し侍りし身の才覚ありて其菩薩の利益依るのめり當らざる
けれども但月毎の酉の日あるまで口トの合のめを甚摩と推たの酉と離日と
五離の離別の象の故に悲喜を主る世占トの合のめも其美ふると觀音薩
埵の逆示さるゆゑ酉の日毎に牌を撰て人の需ふ心せむ人も亦來ると
酉の日され徳徒然に侍るべし然るに身の何なるの需むるも其美ふると
時取るべしとて侍れといふ外面瞻仰て今の日毎に午の時の初刻に菩薩の

示現小美りし物の相見ると喜と易傳小離の相見ると離の南方の卦
けり五行火則火とま十十丙と丙と良と相見ると必喜が喜神の臨む所
幸ゆてけの九鼓の丙午の時當れ其良の方に向ひて占るべし其合のめ
の丙午の離火とて庚酉の兌金と尅時を為す尅の時を
過しぬべし一日の占ひとて正首の説示を主従つらう現這女僧の能辯
記憶も亦尋常なるべし必做とて感して憑りた心地を中身方主の必
記も膝を打ちて其趣あるを折れあつて願ひ占ひぬべし快くと急しぬべ
妙算を領受し。這方へ來ませと身と起し紙門を用ひて佛前へ誘引
中時種も重紙門の頭小杖とて俱まらふ家作の縁の二回過る外面の席
枚と布儲けて方三尺の地炕の上の一間の佛壇にて脚長一尺ありて觀
像を厨子の内にお立てせり。左右の草花を磁製の花瓶に建て砂泊置の玉
器を染

喜神の道
と丙と到
る所の方
見多甲
巳の時
丙寅を
其の寅
其の寅
喜神を
餘りな
其の知

餅と供物あり。常香盤より饜飴と立升香の煙に補陀落山の雲と疑ひ。鳴くも木魚の音に蕭然とて祇陀林の降伏の雨も似るべし。登時妙算の要時甚菩薩を祈念し御前小置る錢六文を取下し擲つる既中と顯れる。其錢は面背の吉凶を知りやありけん徳を三三みしと錢を甚菩薩に返しあり。貞方主とて占北のうへもまた大吉とて信る。且その緯の鉄びと御佛まじりて介後詳に報ゆる。且且等せぬ。とある。恭しく一らの経を繕はく並門品を讀らけし。貞方主のその後妙算の後邊に在りて。佛壇とある。本尊の左右に建す位牌。多中。金龍寺殿贈正二位。黃門真山良悟大禪定。門建武四年丁丑秋。閏七月二日。記す。の義貞卿と祀れる。左の方。春宮亮義顯朝臣。左兵衛督義貞朝臣。及貞方主の先考とて。左少將義宗朝臣の位牌あり。又その右。方。中。刑部卿義助卿の子。右衛門佐義治朝臣。及近屬底倉とて。亡びぬ。右少將義隆

朝臣の位牌を措ける。但是のまゝあり。額田鳥山江田桃井大館堀口に至る。生。新田の氏族の先靈を祀らゆるも。必く心評を紙門の外。面。小。ゆり。する。時種とて。竊に指さし。示し。あ。時種も亦。元。を。駭。又。評。て。御。宗。柴。門。に。頭。赤。黒。二。隻。の。鶏。の。大。く。閉。ひ。し。時。那。菴。主。の。尼。法。師。が。心。を。あ。ら。う。と。思。へ。自。方。は。由。縁。ある。もの。と。問。ま。は。し。ま。と。あ。の。を。便。り。ま。け。れ。靴。を。隔。て。解。け。擡。り。心。地。と。て。又。黙。と。し。既。中。と。妙。算。の。経。讀。果。ら。巻。收。め。誘。と。な。り。小。貞。方。主。と。の。か。り。立。て。故。の。席。を。還。れ。時。種。も。快。退。る。復。縁。類。の。ゆ。り。當。下。妙。算。の。笑。は。小。貞。方。主。の。ち。對。ひ。て。今。も。壽。延。せ。り。と。占。北。の。大。吉。と。君。の。南。方。火。德。也。九。北。系。の。陽。數。あり。と。い。ふ。一。白。の。水。を。封。せ。り。て。久。く。本。意。と。違。ひ。然。れ。當。國。に。不。存。せ。り。と。い。ふ。資。助。の。宿。望。成。就。ま。る。因。り。執。考。へ。る。小。貞。方。の。妻。を。あ。く。と。ま。り。存。る。と。い。ふ。庸。多。武士。の。中。に。疑。ひ。の。る。貴。相。の。信。れ。必。南。朝。の。名。將。健。也。と。い。ふ。ま。り。他。人。と。い。ふ。

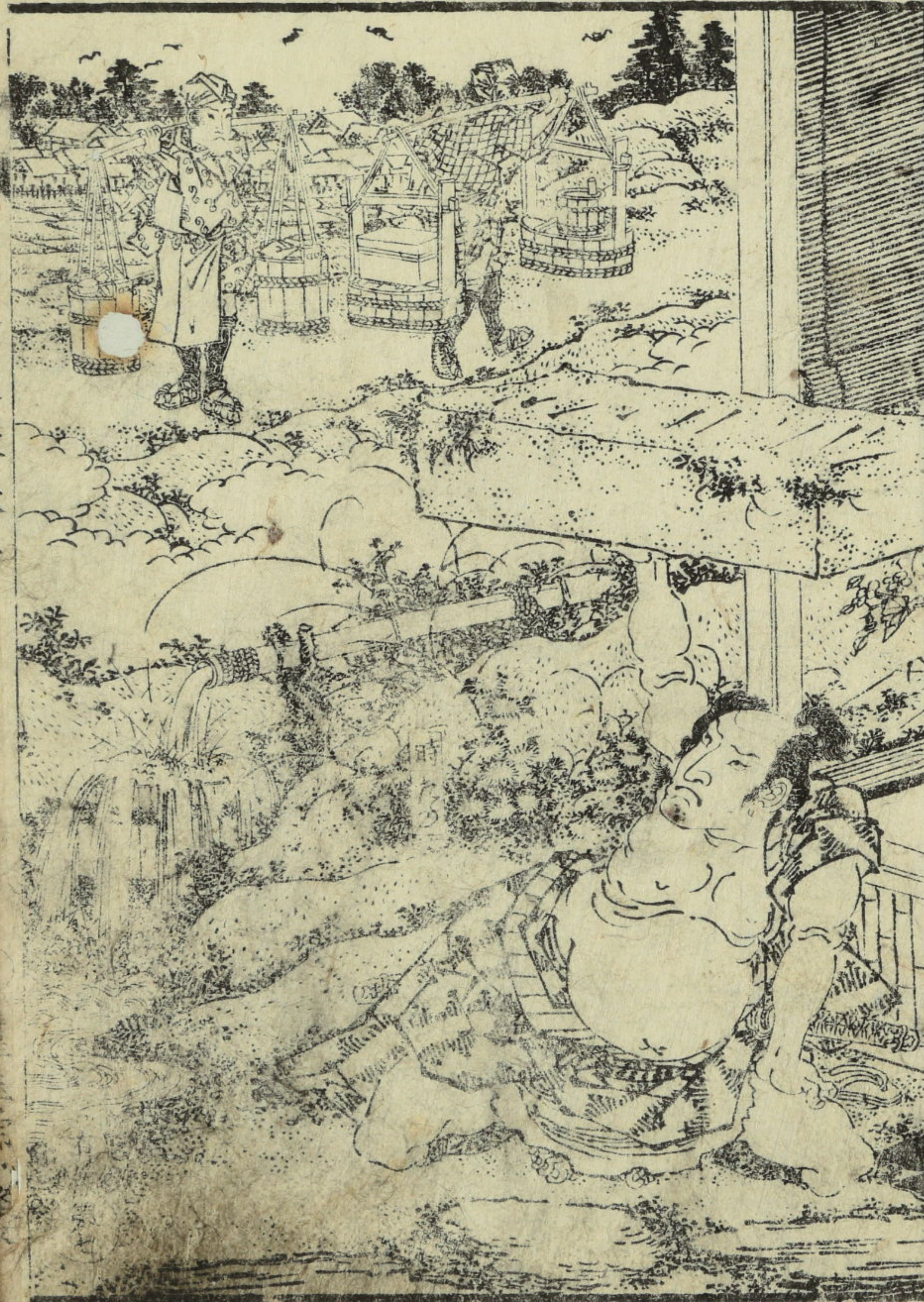
つれづれ賤尼の諱をせむひる。出示のあつて幸ひあらん願ふは名生口せむか。向て駈く
 貞方主のあつ後方とて。齊一驚く時種と面と照と忙然と。庶難をせむひと妙
 算のゆゑを。とち領たつ声と低め。あ疑ひの理り。然らば且賤尼が素生と報せらる。鳥
 許のあつとも。せむひる。四下とて。賤尼が大夫の鷹鳥秤權平當仲と。千葉家譜
 第の老黨也。主君宗胤と共侶の二井寺合戦の時戦歿せりと。家の口碑
 によつて。又賤尼が父をゆるる。權九郎直仲の宗胤の死する。胤自土仕
 する。年来肥前州不在。嗣を子どもあり。朋輩の三男あり。權七実仲と。親を
 俺身と妻せむひる。あ後主君胤自土も。俺二親も世を逝ら。折々南北両朝の御
 合體。小よて。宮方る。城の迷る。攻落され。然も累世鎮西を。勇將の夢え高り。菊池
 殿も。足利家へ。先と。腕の鋒と。伏せて降参する時。宜れ。主君の迹の。幸も。肥前の
 領地と削られて。家臣も離散と。なれ。賤尼が。口実。仲の。父祖の。故郷。で。ゆる。這下

総る。千葉宗胤。遠く。戦程も。世を。逝ら。あ。一個の。男兒。あり。か。それを。千才。も。足ら。む。
 去。て。牌。疇。と。亡。る。ゆ。り。一。縷。衣。の。親。と。変。て。這。首。を。命。と。締。び。一。つ。の。櫛。目。の。髪。を。あ。ら。う。如。し。
 ある。あ。大。父。當。仲。の。陪。臣。も。各。た。は。猛。者。を。管。根。竹。下。の。戦。ひ。の。義。自。土。も。う。感。状。を。
 賜。り。一。つ。の。も。あ。り。あ。後。二。井。寺。を。戦。歿。せ。折。總。大。將。と。り。惜。む。め。ひ。て。その。子。直。仲。と。召。
 よ。む。て。の。厚。を。仰。め。り。主。君。宗。胤。の。亡。骸。と。共。侶。を。葬。れ。を。厚。く。重。ん。ず。め。ひ。て。を。傳。御。恩。を。
 二。親。の。時。々。の。い。ひ。お。し。俺。們。が。世。を。逝。る。も。那。御。并。新。田。殿。の。御。一。族。の。あ。ん。其。提。の。宗。胤。と。と。
 異。る。る。と。あ。り。と。吊。ひ。を。せ。れ。と。の。れ。の。あ。り。一。つ。の。其。身。を。締。び。一。初。も。主。君。宗。胤。胤。自。土。も。あ。
 死。筋。の。後。世。の。ゆ。え。大。約。新。田。の。御。一。族。の。あ。ん。位。牌。を。本。尊。の。左。右。の。安。措。せ。り。且。其。の。
 回。向。を。懈。ら。せ。り。年。來。ま。ま。り。不。慮。而。賤。尼。の。錢。の。彼。此。の。ゆ。え。今。の。城。王。千。葉。宗。胤。
 争。亂。する。ゆ。え。と。告。げ。り。一。つ。の。あ。り。人。賤。尼。の。素。生。と。知。り。召。せ。他。が。父。祖。の。肥。前。の。向。
 家。の。仕。へ。の。と。い。は。り。口。碑。の。あ。り。と。も。け。ら。る。西。国。の。の。緯。の。趣。口。碑。の。あ。り。と。も。の。あ。り。其。日。

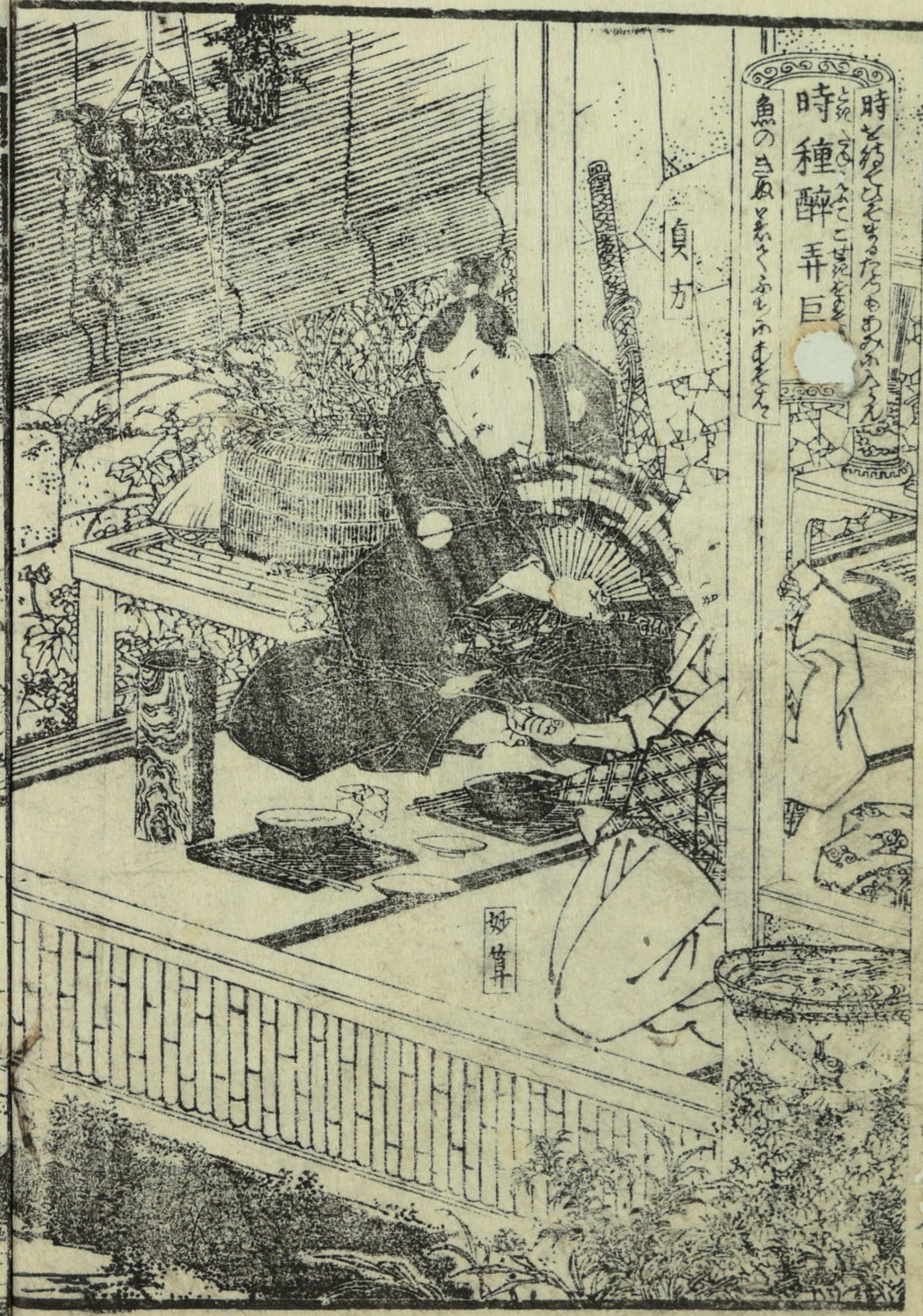
満兼の逝
去と鎌倉
大草紙
永承七年
と記せり
むまのる
り鎌倉
管領代
記ふ永承
十六年と
わの従ふ
べー

如所の言まふ。快く参れと頼宗仰下されさるる。今後、城守をあらせ見参ふ事。ま
數回ある所。就一箇の秘事ある故の鎌倉の管領さる。去歲の六月廿二日、
卒に有るひし。當管領持氏さる。元年、少少は、執權上秋憲定入道、
政も動され、見質の沙汰、然程ある城主の侍所の別當。年、
より當管領、御許容あり。仰りらる。一、那執權入道の柱。宿望空く。一、
入れ籠城の準備整へ。若石の軍。この機を頭し。又衆議を疑。
新田の餘類と取立て。總大将おぼせ。義兵かく軍。名あり。福屋少将義隆。底
倉也。較れ。も。自方。主存命。て。深。潜。ひ。て。あ。え。き。え。の。信。方。へ。来。あ。り。共。小。大
義。と。伸。ん。の。と。宣。ひ。し。故。あ。り。賊。尼。の。傳。言。を。信。腹。心。と。明。て。告。げ。り。錢。下
り。既。し。知。る。り。わ。れ。ん。然。恐。も。置。ま。る。の。秋。と。昔。の。事。と。今。の。身。の。便。宜。と。告。て。向。り。し。此。の

憑く。夢。え。し。自。方。主。の。内。占。と。心。お。ひ。あ。り。今。這。老。尼。の。長。物。さ。の。據。る。所。あ。ら。ね。も。
乱れる。世。の。人。心。飯。の。中。も。鍼。お。れ。只。一。朝。の。奇。遇。お。引。れ。て。夢。さ。る。と。さ。ら。ん。知。燈。言。皆。忠
告。も。俺。便。宜。の。り。あ。り。も。出。家。お。し。且。女。流。入。果。敢。多。婦。言。と。信。容。て。名。告。ら。り。
悔。れ。り。も。あ。ら。ず。何。と。い。え。し。難。て。稍。沈。吟。あ。り。し。時。種。の。公。ひ。ま。し。起。る。性。の。色。を。を
找。え。り。の。後。方。より。主。の。袂。と。被。動。と。あ。り。と。黙。止。し。め。目。今。若。主。の。の。れ。し。
此。皆。御。利。運。の。前。兆。也。昔。昔。縁。既。お。分。明。し。持。佛。お。置。れ。死。位。牌。の。言。の。證據。お。做
ま。し。足。り。備。這。便。宜。と。り。失。れ。後。悔。お。お。し。臣。等。お。任。め。り。し。と。辭。せ。り。論。薦
め。制。め。ら。れ。し。此。も。聽。く。ま。ら。ず。妙。算。お。う。ち。對。ひ。し。あ。り。今。何。と。又。何。を。隱。し。て
夢。の。行。ひ。を。て。知。り。現。一。旦。の。奇。遇。お。あ。り。と。覺。れ。今。何。と。又。何。を。隱。し。て
も。推。量。お。れ。如。く。是。新。田。の。嫡。孫。前。越。後。守。左。少。将。自。方。朝。臣。也。佛。本
走。從。ひ。ま。り。某。六。日。左。衛。門。時。能。が。為。り。孫。畑。主。馬。介。時。実。が。獨。子。也。畑。六。郎。二。時



友成道高一屏卷三



時と紡ひをまらなるもあみ入る
時種醉弄巨
魚のさぬとあくふもあまを

真方

妙算

依成道高一屏卷三

三十一

種是より。御の菴主のれど。南北兩朝が合體の後。足利は。滿洲に叛て。その勢
 以不棄。る。變許。素より。限る。新田楠の餘類。根を斷棄を枯さん。せ
 る。この朽。神も。怒り。人の怨。と。や。御和睦の。今。小。主客の。勢。以。同。か。自。方。は
 軍威。活。振。る。皇。裏。奥。の。孤。城。を。落。れ。又。越。路。も。上。野。も。潛。び。く。主。從。二。入。投。て
 往。方。も。定。め。る。旅。より。旅。不。赴。折。る。當。國。の。守。將。瀧。主。が。鑄。倉。管。領。を。竊。み。怨
 る。より。あり。て。聲。信。々。と。世。の。風。声。を。信。濃。路。を。傳。せ。れ。然。と。て。虛。實。の。料。り。を。千
 葉。の。城。下。小。道。つ。て。且。その。虛。實。を。探。る。く。その。更。果。し。て。實。を。六。條。君。大。義。の。資。助。の
 是。宛。便。點。も。あ。ん。と。主。從。其。外。小。計。議。を。旋。り。と。這。地。へ。見。伴。と。け。り。豈。あ。ん。給。舊
 縁。ある。尼。公。の。替。立。より。と。這。吉。左。右。と。言。ふ。と。い。は。れ。る。上。小。差。兵。の。方。便。と。七。千。葉。殿。へ
 汲。引。と。做。て。給。て。ん。や。と。耳。に。諦。ま。當。坐。の。答。妙。算。の。ゆ。ゆ。と。と。ち。領。を。廣。く。避。て
 却。主。從。小。對。ひ。て。い。さ。す。鈍。死。賤。尼。の。錢。下。も。原。是。佛。の。授。与。な。れ。時。の。ま。て。の。奇。持。あり。

然るより。南朝の。殘將。連。連。と。言。は。る。と。猜。せ。と。の。違。を。と。詳。る。か。女。合。を。乘。り
 る。嬉。し。も。掩。身。老。女。の。ひ。る。れ。大。事。小。預。る。も。あ。ら。ね。と。幸。小。七。千。葉。殿。の。願。を。年
 來。被。り。は。れ。見。參。の。と。易。く。折。と。揣。り。と。あ。ん。と。竊。ひ。傳。へ。ま。ま。一。更。做。る。と。い。は。れ。亡
 親。の。い。れ。ま。の。始。め。の。終。も。あ。れ。忠。孝。の。本。意。小。稱。か。任。ま。ま。小。款。に。ま。あ。ら。ぬ。か。且
 く。あ。小。退。道。ま。れ。吉。左。右。と。俟。せ。あ。へ。呼。愛。た。ま。と。祝。言。辭。に。又。他。事。も。あ。ん。と。言。ふ。自
 方。せ。り。な。く。領。を。ひ。て。あ。ん。と。あ。ら。ぬ。と。疑。ふ。と。あ。ら。ぬ。と。言。ふ。一。ト。口。より。出。て。駟。の
 趕。が。と。あ。ら。ぬ。と。時。種。小。先。と。せ。れ。て。と。恥。り。懇。意。を。任。し。と。那。一。議。の。成。不。否。り。砂
 く。ま。の。厄。會。小。ま。る。べ。れ。今。より。と。馮。心。の。あ。ら。ぬ。と。心。の。あ。ら。ぬ。と。御。の。這。門。邊。に。赤。黒。二
 隻。の。鶏。の。大。く。聞。ひ。し。り。時。赤。死。の。肩。を。逃。亡。死。折。る。菴。主。の。の。れ。と。油。を。く。その
 意。を。ゆる。那。赤。鶏。の。用。方。の。殘。將。餘。類。小。壁。言。られ。然。中。あり。ぬ。の。ま。ら。傷。を。被。り
 血。の。塗。れ。脆。く。も。肩。を。逃。亡。せ。し。愉快。ら。ぬ。と。今。も。是。の。件。の。一。議。の。ゆ。整。を。掩。身。の

仇のさかた祥あわさる。と潜りて又向の妙算頭より梅のさかた祥おぼん。
 足利方の辟言る。那黒鶏の猛くと一旦勝不棄るといふ。宿所と傷れらる。知らず。
 逃去敵を赶甚て柴門の内馳入程。那樹の幹突中。と忽地息の絶た疑。
 くの死する。他脚覽せよ。指せの自方主の時種も訝り。晴を定め。遠の庭の樹
 間を果しく件の黒鶏。何の程の敷死あり。當下妙算又の幸。那鶏共の近
 邊の村人の養鶏あり。小甲夜晨せ。忌嫌ひて送る。這首へとあ。理ま。賤尼よ
 預けは。死出家の要る物。暁を知ら便り。折々小餅と。そのまれ
 かくあれ。既勝る黒鶏の死せ。是も自方の吉兆。何の不祥。はる。銭ト。那鶏の
 勝負の如く。おぼれ。時至れ。といふ。願の疑念。祛け。意見。う。存。あ。
 皆死。為。おぼれ。婦人。おぼれ。辯論。主従。齊一。感嘆。と。趣。亦是。理。あ。
 現窮冠の赶。那黒鶏。勝。不棄。する。不覚。よ。敗。取。り。人の。奇。伏。亦。

恠のて。敬言。ま。の。判断。甘心。と。稱へ。笑。坪。入。主。客。の。同。答。時。程。下。
 下。哺。あ。り。妙。算。日。影。と。瞻。仰。噫。俺。多。鈍。也。日。の。大。傾。危。る。物。欲。
 あり。と。おぼれ。例。の。豆腐。の。末。を。那。外。沽。奴。何。と。道。心。者。あ。得。意。す。
 と。見。敗。と。疎。き。な。欲。快。來。よ。う。咳。に。既。お。ま。せ。折。る。豆腐。々。と。呼。声。少。
 え。漸。々。お。近。く。る。と。末。ぬ。れ。妙。算。の。遠。く。盆。を。引。提。て。柴。門。小。走。り。お。お。拵。て。あ。
 喃。々。と。招。く。お。時。種。の。多。分。お。を。障。子。を。引。盡。て。主。役。俱。お。隠。れ。登。時。妙。算。の。
 豆腐。一。挺。買。と。て。銭。と。遞。与。し。七。裡。面。入。程。も。あ。外。面。より。外。屋。あ。り。何。
 甚。さ。る。酒。の。油。の。用。の。ま。ま。と。の。妙。算。又。と。お。お。不。樂。る。用。る。ま。
 や。且。く。等。し。と。留。置。て。棚。より。卸。せ。醉。竹。筒。を。左。右。お。合。り。走。り。ぬ。喃。外。屋。生。至。お。一。
 合。三。合。より。外。の。要。る。竹。葉。を。れ。と。客。人。お。一。外。買。ん。と。美。酒。を。這。醉。竹。筒。を。客。人。
 限。の。節。お。阿。足。の。五。五。でも。よ。う。と。い。う。遞。与。す。外。屋。の。取。子。を。受。と。り。微。

笑々か共呑さる這醉筍の一件近く入る奥へ。堀りてせめぬぞやとの妙算もうち笑
 ひて然らば堀の両箇あをさし自れが棚より落ち落と物の役あり立せむる。果存擇とをきん
 よ。快飾とをきん。取子の呵々とうち笑ひて両箇の桶多瓶の蓋を此彼と極取
 調合し件の筍九合の量の量入と得油其甚麻と尋と尋と不存油とをの
 朝買ふるその辰あり。翌又來ませその折あけの價と取せんぞとの取子の領記
 ぞと何時とも賜りせん。又御用と願ふとと心で馳く兩箇の桶の荷索操り杖
 名。擡起ら声高から外屋々々と呼びさう。走りてえまきりあけり。然程妙算又
 醉筍と推して外面々々柴門と引圖足る。故所ある來り却主従の對ひの
 又のふく身ひさるれ。庖福掙は志ける程。能の疎さうん。且く九のふく。この
 時種推林めて。そまら措く。俺今も火を焼く。その指揮と頼む。この
 妙算うち笑ひて。噫物体る。あふと。宿客火を焼く。益々。精神。

立と負方も禁難く。俱に勞いぬけり。憊而又主従の等と。凡半响のり。日景のく
 傾。門の槐は寒蟬の頻鳴く。心向上ま。残る暑を忘水溜る。管見立日絶て雲時
 端居の縁頬の檐。小宮む嬉の菓。擡る彪脚踏。小風戦々。黄昏近く。妙
 算の料理。只一種。多豆腐の羹。美酒盪り。醉筍。柴門と。添て。天竺。金
 折敷。成る。載て。と。且。美。美。の。枕。と。素。木。の。折。敷。取。り。て。主。従。を。差。め。て。の。ふ。ろ。
 寔。小。下。の。田。舎。不。れ。の。管。待。ま。ら。ま。東。西。中。平。况。や。早。の。事。心。火。の。高。菜。を。結
 びて。握。る。可。の。阿。壁。の。ま。の。ゆ。れ。も。旅。の。あ。れ。椎。の。葉。も。盛。り。と。詠。れ。歌。の。あ。る。も。傍。
 時。を。あ。り。け。り。飯。も。程。多。く。ま。あ。り。甘。ん。且。あ。箸。を。取。あ。げ。ぬ。や。あ。ん。口。の。愜。む。と。も。切。く
 竹。葉。も。過。り。あ。る。長。途。の。疲。勞。の。瘡。り。て。今。宵。を。な。く。睡。ら。る。あ。ん。や。嘯。と。他。事。も
 是。敗。待。能。不。主。従。の。飲。ひ。と。速。く。共。侶。は。美。美。の。蓋。を。取。り。て。田。舎。得。油。の。花。も。あ。る。
 香。も。る。は。柳。の。白。笠。を。と。深。る。む。ろ。不。滅。の。餌。料。理。の。折。小。の。鐵。を。擇。り。人。の。あ。ら。輒

鮎の一杓水も供ありけん。必ひて登時又妙算ハ不皿とて勸休と貞方の主推戻と。
 且あつたはりてと辞ひの果一をれ妙算をうら取むと。あを憚りてはれども。
 然るに阿藤と試て不皿を身と身退ても爵小酌と半盞許と一吸飲盡
 去て懐紙をう先や兩三回盃縁を拭以膝を拭りて共くまわると貞方を受
 こそ酌と軀を傾けて又妙算返一あつた家臣と會釋と主客献酬の
 口誼不興巡れも貞方主ハ沙量るれ二度不と辞ひの妙算を請薦也。
 必ひの随不酔たり又時種も浮け不時種素より酒を嗜む。竟の獨引受くのと
 大なる酔竹筒の酒送るる喝けり。その間妙算小献まあり酌を任甚一合酒
 量るれと半盞盛るとの喫さうり既不と見の暮ハ妙算ハ行燈火を点蚊遣と
 焼てる四八表の物と不主従を慰むる。語次不向け。実吉を京録倉より
 かん訪係篋と殿達と索まをのつと不縛一一個の後有為で漫行とあひハ。

危はと不ゆと。と必ひと貞方うちつ。恁かありハ理りる。縦十名二十名士卒を左
 右不従へうとの又勢の敵と撞見を九牛の一毛也。俺身を成る不足さ下。且従
 者の身けれ。盤纏續々外見不立。進退不便のをも亦殃危と招く不度。然れ
 主従二人も俺と敵と避るの術あり。又時種が武勇勁捷。踏屋不登る。狙候の
 枝と傍か如く堅と破り。鋭を摧く不石と卵と壓まより易ら加旃時種ハ千鈞一髮
 力あり。壁言建保の義秀親。又近世不吹え。妻鹿孫三郎多とて中提へいあ
 びり。あつたて幾番り。又勢の討兵と殺脱て恙多とをゆ。ゆりて用心せと密め
 して説諭ハ妙算ハ有理々々と伏合るるも疑不。実語と必返面あり。時
 種ハ多精と酒氣不兼ハ進出。菴主目今俺君の宣ハと疑不。虚語多と
 必ひの軟弱ハ本事とせ。勢ハ猛く縁頼ハ立と貞方呼禁て已れと宣ハ。酔
 人の癖も亦聴べうあつた。妙算ハ含笑る。行燈の益燈取て灯口を其方ハ

却む時種（まはら）の不便（ふべん）を以て。彼此（あつちあつち）と看廻（みまわ）り。脱履（だつりょ）して。最大（さいだい）なる青石（せいせき）あり。
 その長（なが）い四尺（よんしゃく）あり。四面（よんめん）一尺（いつしゃく）四五寸（四五せん）あり。骨（ほね）は這石（こゝろいし）の重（おも）く。幾（いかに）百斤（ひゃくしん）あり。えん。力（ちから）雄（ゆう）の
 神（かみ）あり。その力（ちから）一人（ひとり）の力（ちから）の如（ごと）く。動（うご）ちもえん。ゆり。時種（まはら）の物（もの）も。其（その）て。究竟（きうけつ）意（い）縁（えん）頼（らい）よ
 起（おこ）し。肩（かた）ふら。兼（かみ）せて。又（また）取（と）る。肩（かた）と。目（め）よりも。高（たか）。捧（たも）揚（た）て。又（また）彼（あつち）此（あつち）と。態（たい）更（さら）弄（ろう）びて。庭（にわ）の樹（き）間（ま）に
 暗（くら）んと。數（かず）を。那（な）方（ほう）。這（こゝろ）方（ほう）と。之（これ）と。違（ちが）ひて。舊（ふる）所（ところ）へ。卸（おろ）措（す）き。若（わか）く。と。面（おもて）色（いろ）赤（あか）。徐（ゆる）に。掌（てのひら）
 埃（ちり）ら。拂（ふ）き。兩（りょう）袖（そで）飲（の）め。衣（え）領（りやう）換（か）合（あ）ひ。故（ゆゑ）席（せき）小（こ）着（ぎ）る。妙（たう）算（さん）の直（ちよく）と。呆（ほう）れ。眼（め）を。睜（ひら）き。手（て）を。
 吐（つ）き。入（い）る。ぐも。を。ゆり。と。と。以（も）て。久（く）と。貌（かたち）と。更（さら）ぬ。却（かへ）時種（まはら）ふら。對（たい）ひて。鬼（おに）神（かみ）も。及（およ）ぶ。身（み）の。力（ちから）
 量（りやう）世（よ）も。又（また）傳（でん）わる。と。ま。寔（まこと）一人（ひとり）。當（あた）り。多（おほ）く。勇（ゆう）士（し）も。せ。と。活（い）き。と。と。い。か。る。ゆ。と。過（あや）言（ご）と。元（げん）
 む。這（こゝろ）為（ため）體（たい）と。介（け）殿（たうら）。小（こ）報（ほう）も。と。い。と。ま。く。憑（たも）り。か。ひ。か。ん。と。い。は。時種（まはら）領（りやう）と。く。
 そ。と。の。該（かい）の。ゆ。と。去（こ）年（ねん）。義（ぎ）滿（まん）世（ぜ）と。迹（あと）と。得（と）軍（ぐん）義（ぎ）持（ぢ）狐（こ）疑（ぎ）深（じん）く。骨（ほね）肉（にく）と。も。

容（い）さ。れ。郡（ぐん）國（こく）の。大（おほ）小（こ）名（な）鬼（おに）胎（たい）抱（だ）解（かい）體（たい）と。上（かみ）落（おち）せ。あ。の。ま。と。穿（あ）ぬ。世（よ）間（ま）ゆ。と。い。は。乱（みだ）れ。

傳（でん）時（とき）節（せつ）子（し）葉（え）殿（たうら）の。俺（おれ）君（きみ）と。合（あ）體（たい）と。義（ぎ）兵（へい）と。起（おこ）り。あ。ひ。あ。虎（こ）小（こ）翅（し）と。添（そ）え。と。く。向（むか）ふ。
 前（まえ）る。百（ひやく）戦（せん）百（ひやく）勝（しやう）且（かつ）房（ぼう）總（そう）と。平（へい）均（きん）。武（ぶ）藏（ざう）と。略（りやく）と。鎌（かま）倉（くら）不（ふ）攻（こう）入（い）る。も。易（え）易（え）と。い。と。勇（ゆう）
 む。と。自（みづか）方（ほう）推（おし）林（りん）示（し）せ。噫（あ）声（せい）高（たか）。何（なに）と。い。の。の。壁（かべ）も。耳（みみ）の。あ。の。と。い。常（とこ）言（ごと）と。い。は。慎（しん）と。薄（はく）
 くの。後（のち）悔（くわい）の。ん。要（えん）る。と。言（い）ひ。辯（べん）の。痛（いた）痛（いた）と。叱（な）り。の。時種（まはら）の。頭（かぶ）を。搔（か）き。去（こ）返（へん）巡（めぐ）と。い。は。依（よ）口（くち）を
 鉗（くわん）め。酒（さけ）の。酔（よ）い。ま。と。升（のぼ）て。頻（しばしば）と。不（ふ）睡（し）眠（みん）と。催（もよほ）し。況（ま）自（みづか）方（ほう）主（しゅ）の。沙（さ）量（りやう）を。り。け。れ。漸（し）
 漸（し）酒（さけ）の。酔（よ）い。ま。と。升（のぼ）て。頻（しばしば）と。不（ふ）睡（し）眠（みん）と。催（もよほ）し。況（ま）自（みづか）方（ほう）主（しゅ）の。沙（さ）量（りやう）を。り。け。れ。漸（し）
 漸（し）酒（さけ）の。酔（よ）い。ま。と。升（のぼ）て。頻（しばしば）と。不（ふ）睡（し）眠（みん）と。催（もよほ）し。況（ま）自（みづか）方（ほう）主（しゅ）の。沙（さ）量（りやう）を。り。け。れ。漸（し）
 漸（し）酒（さけ）の。酔（よ）い。ま。と。升（のぼ）て。頻（しばしば）と。不（ふ）睡（し）眠（みん）と。催（もよほ）し。況（ま）自（みづか）方（ほう）主（しゅ）の。沙（さ）量（りやう）を。り。け。れ。漸（し）
 漸（し）酒（さけ）の。酔（よ）い。ま。と。升（のぼ）て。頻（しばしば）と。不（ふ）睡（し）眠（みん）と。催（もよほ）し。況（ま）自（みづか）方（ほう）主（しゅ）の。沙（さ）量（りやう）を。り。け。れ。漸（し）
 漸（し）酒（さけ）の。酔（よ）い。ま。と。升（のぼ）て。頻（しばしば）と。不（ふ）睡（し）眠（みん）と。催（もよほ）し。況（ま）自（みづか）方（ほう）主（しゅ）の。沙（さ）量（りやう）を。り。け。れ。漸（し）
 漸（し）酒（さけ）の。酔（よ）い。ま。と。升（のぼ）て。頻（しばしば）と。不（ふ）睡（し）眠（みん）と。催（もよほ）し。況（ま）自（みづか）方（ほう）主（しゅ）の。沙（さ）量（りやう）を。り。け。れ。漸（し）
 漸（し）酒（さけ）の。酔（よ）い。ま。と。升（のぼ）て。頻（しばしば）と。不（ふ）睡（し）眠（みん）と。催（もよほ）し。況（ま）自（みづか）方（ほう）主（しゅ）の。沙（さ）量（りやう）を。り。け。れ。漸（し）
 漸（し）酒（さけ）の。酔（よ）い。ま。と。升（のぼ）て。頻（しばしば）と。不（ふ）睡（し）眠（みん）と。催（もよほ）し。況（ま）自（みづか）方（ほう）主（しゅ）の。沙（さ）量（りやう）を。り。け。れ。漸（し）
 漸（し）酒（さけ）の。酔（よ）い。ま。と。升（のぼ）て。頻（しばしば）と。不（ふ）睡（し）眠（みん）と。催（もよほ）し。況（ま）自（みづか）方（ほう）主（しゅ）の。沙（さ）量（りやう）を。り。け。れ。漸（し）

帷の下折^レて^一圍^レて^一や^一殿も^一畑主も^一淨手も^一やせ^レあ^レぬ^一秋^一尚^一小夜深^レて^一起^レ出^レた^一ら^一ふ^一
燭^のを^のを^ゆめ^のあ^はれ^のと^のれ^も生^心ま^る主^従の^枕隣^らを^夢あ^らふ^又管^ぶる^もあ^らふ^し
ゆ^りけ^り然^程不^妙算^の臥^房の^紙門^を引^開て^且不^意中^に取^柄を^洗ひ^淨め^庖漏^らる^を
拭^きた^りて^末に^那主^従の^臥房^を隔^たり^身を^各鳩^立て^垂時^寢息^を窺^ひて^荒尔^と突^て
拔^き歩^きあ^らふ^佛間^不退^達時^後れ^る夕^勤鳴^る木^魚の^音を^夜の^中あ^らふ^けの

第六回 福草村の二兇奇功を奏せし 藥酒を醸して郡領東歴を詳らす

却^つて^{その}夜^の子^二刻^比連^立來^ぬる^兩個^の杜^校比^彼打^扮奇^刻に^赤銅^造の^面刀^を
十字^の像^く腰^ふし^細鏢^の戰^襲臂^手膺^盾鉞^打方^抹額^を戰^鞋戎^穿締^め
先^進し^一人^が火^繩を^揮舞^ひ薄^月夜^を多^柴門^の竹^着て^二天^あま^り這^方より^小石^を
拾^きて^碓と^擲磔^の音^の暗^蹄を^入裡^面木^魚の^音絶^て仏^間を^出し^妙算^を紙

燭^を兼^つて^兩折^戸と^密と^推用^の透^とと^ぞ難^藏狄^船藏^狄と^回六^個の^杜校^を
然^と父^と足^と足^と不^一船^て找^らる^母肉^味美^行れ^狄今^宵の^首尾^の甚^麻を^ぞ
と^回つ^まれて^笑い^けは^まされ^がと^さや^ね殿^も仰^つけ^れ豫^の計^較一^箇も^外ま^終ら^ぬ
那^陀々^花酒^を以^の隨^小喫^りた^自方^も時^種も^醉て^臥房^の入^りよ^二時^あま^り
經^けれ^今日^の死^人の^異と^宿鳥^を捉^るよ^り易^く候^へ緯^の始^末と^説示^さん^快々^に
入^らぬ^先不^立親^を引^る胞^兄弟^のも^草鞋^と脱^捨て^正屋^の入^て坐^せて^難
藏^を密^にと^喃母^の聲^を聞^きる^咱們^の一^役兼^て料^屋の^販子^を妻^看那^陀々^花酒^と
毒^を酒^を篩^分ち^通魔^の又^賣態^も妙^とと^誇れ^輪と^弟の^船
藏^から^調子^の声^を低^め那^酒の^豆腐^の敵^藝吹^合ま^れ殊^々不^の毒^劇
と^穿え^ら咱^們の^豆腐^賣人^を一^役勤^をと^那奴^們の^嘆ひ^狄と^回六^妙算^を
領^をと^ら脫^落あ^る二^荒枕^を装^着て^露も^送き^嘆き^進退^の也^の

あゝ容易易くその那酒の目殿より賜りて那酔筭の機関を樋とて内を
西箇の間へ外回の漆とて塗まはれし目標とて黒に方丈の陀々花酒あり黄多
あま母る酒あり茶酒と唐んたるは黒に方丈と下の上の穴敷と指と塞げ
る酒の此も出さ毒酒の盛たる黄多方丈と下の上の穴敷と指と塞げ茶
酒の些もあざり殿より傳授されしは俺身の喫と人仕と盛とて通魔も
ゆるり酌と人ま通とさぶりとその度毎の爵酌と喫むと骨の折る所為況
既の乱酒の多とて尚ち錯て毒酒の酒を盛し俺身の喫むと然とて米色も
酌の多き苦勞の今又話も如く輕に斬りて然とて米色も暗くは
破れあろのこなたで俺身の矢庭に殺さる命のさる大役と左や右や勤果
心子の知も儘の豆腐賈人と酒肆の販子の打拵も今に誇るといふ君も
物もあや胞兄弟俱に膝立直くとその該もあや胞兄弟の亦いふと那叔
このなり

このなり
這庵へ輒く引入れを一向の妙算はれがよ那叛逆の風声の世に隠れ
方も亦傳説に必這地へあるとあんな然るるの便點とて留めて縛と
下されて那主従の骨相書と訪像と賜ひてそれより日毎の門は立
旅客も回るとつげたりしけ亭午の比柴門の頭と過る旅客あり主
怒りて一個の縮羅の單衣と被て深編笠と白柄の敷鞋の両刀と帶
たれは向てもあるを武士又一個の従者老年紀の三十あまの形と身
遅く長刀と腰刀と裳を引折り脚絆と穿て仍果と駝ひし主は並み
又存と那後者の面魂の餘の模様も訪像の合と見れば新田貞方主
たり曾の忽地うち騒だてけりせしと折折もよ外面を羨鶏の黒と赤
大く爪戦ふと已ざりければ那主従の面魂も停在てを程も赤鶏の
肩て逃ると透さる黒鶏の趕々俺身の不と来ぬけり登時裡面より箇
史文傳第一 車巻二

妙さん

有像第九



難藏船藏夜
 來會錢ト庵
 ひるよりのちのち小まあへ

荒海松翁

獨語々密引て試みる。那主従の外、面を渡してうち敬馬を供し、必要時且つ俺這
 女尊と南朝の由縁ありのる。この隠宅を欲と見つけ、那後者小呼門にて秋景君の堪ぬを
 言種小要時の宿りを請ひより。その圍套入りの一、當里俺又後々の為と見つけ、
 あれは仇戦小勝る黒鷄と見せ、竊小紋殺と樹粒の間小棄措つ然りと見せ、あつて出
 迎て正屋小引茶と薦め、丁寧小款待を程小件の武士、銭小向小この身小
 宿望の成果を知り、ほいといひのく便り、てて箇様々々小の誘へ、能て佛間小相
 伴て、銭のて占小ふふくと占象の大吉と報知して、飲せ觀世音小這歡ひ、さうを
 稍久く普門品と讀る、佛間で時を移せ、小拵置れ、義貞以下の位牌と見
 せ、為、那們の果と位牌とを目と照ら、愀然とあり、至て問ひ、もまた件の武士、新
 田貞方又従者の畑六郎二時種小を、あつて、と猜する、猜するも、名告らせ、人
 たる、あつて、と決め、この豫の計、議、今、この時、と見つけ、正は、俺身の素

生と説小、新田舊縁ありと、殿の隠謀、色々、誠小、其、其、告て、新田の嫡
 孫と總大将とあり、共、義貞と起、軍、名、あり、と、平、兼、城、内、軍、議、あり、を
 笑つと、昔、相譚、課、せ、め、の、貞、方、の、為、疑、ひ、て、早、あ、る、名、告、つ、と、那、時、種、が、焦
 燥、と、主、も、さ、う、と、名、告、て、意、中、と、諦、め、た、信、れ、が、猶、も、主、従、の、心、を、緩、さ、せ、ん、為、小
 け、上、り、小、銭、下、の、大、吉、と、の、り、の、豫、の、口、傳、小、辯、と、加、て、最、も、愛、々、説、示、せ、し、と、貞
 方、主、後、ら、ち、啖、て、飲、さ、る、小、あ、ら、ぬ、も、南、北、兩、朝、小、壁、言、た、る、赤、黒、二、隻、の、鷄、の、仇、戦、小
 赤、鷄、の、肩、小、心、小、掛、て、云、云、と、い、れ、折、小、を、慰、め、御、當、小、紋、な、る、黒、鷄、と、自、滅、志、
 せ、と、い、ひ、と、購、め、て、是、も、老、を、祥、多、と、壽、長、と、い、は、ら、解、て、遂、小、止、宿、の、心、あ、り、信、を、折
 ぐ、餘、達、の、酒、と、豆腐、と、賣、の、と、ま、れ、却、貞、方、と、留、め、し、と、隱、語、を、知、ら、ず、小、介
 る、小、胆、の、洗、れ、小、畑、時、種、が、膂、力、之、方、夫、無、當、の、勇、あり、と、豫、も、信、ず、し、と、い、は、ら、あ、ら、
 くと、い、ふ、よ、の、言、と、設、て、そ、の、せ、小、那、奴、醉、る、折、を、い、は、ら、車、小、兼、せ、し、れ、と、此、百、擗

論せむ下立也。句。又よ那縁頼の頭を脱履石を引起し肩から載捧揚ぐ庭の
 樹間を幾遍欽りと送り又故の所を措らば抑幾百人力あるや最怖る哉
 猛者もれども智慧浅けれが瞞ま易く那陀々花酒を運ぶ。飲せられた中ら主
 共侶も酔臥り比皆是殿の方寸より出る計畧の圖を當りて大功を不成就せぬ
 只這一本小亡者の悪名を雪むべ。絶る家と貞え。とせけし程の程ありんか
 愛とやと一五二十の長物より不齊一勇む灘藏船藏笑片向らら領領是不就も
 感入る小殿の御計畧自方主後這地不を。必その憩ふ所を儲ぐ細攻
 張れと彼此下知の折近曾の錢下の流行の忠告の密訴と聞食
 入られ又俺們の目より出賈ふ打扮と彼此巡らるの餘も本店酒肆
 茶店の密計を洵示きて骨相訪筆を遞与させぬ。準備は自他食異る所
 小幸ひと母の宿所那主従の立寄り人力を天の錫杖に立身疑ひ入る。

寔不賀志下賀志と辯ひり答る兄も弟も如意満足の飲限るる。妙算は皆
 をも俱不笑々領迄那陀々花酒を飲る。後乃初めりとも勇力備わると心
 共小亡失と鮮薬を用ひて程の幾日を経ても醒まなく。竟然と死に至ると正ふ
 惜望れども寐さと措ら捕栄る。快細めて訴せると松藏の命を奪ふ女才
 ぬ。元飲御堂の才が隠語と那自方主従の更迭と知らぬ。折咱們は飛
 似く城内を走ると。各も許稟せら殿の飲飲大々。小の士平と將々
 汝が母の宿所赴実檢と違ふ。那主従と牢轄小乗と鎌倉へあらせん。汝
 不を走り還りと親同胞と共侶守護と孤と福草村の母の宿所を等みと仰出
 されり。恥と躍と旋と走りゆく。件の。大哥不報て夜と入ら。ちれきてまつを
 の。又離藏も目今母のこれと。最も緊く細めて殿の因臨と候る。生物も異
 る。の。草の。元。似。快。醒。て。夜。を。隠。す。飲。ら。る。も。反。對。し。て。本

直も多き踏雲は仕支且一覽と後不楚と隊與と定む。船藏立ると急ぎの応と
 答て行燈も紙燭も秉て火と程一胞兄弟俱小立ありと紙門を半介推開に醉臥
 主従と瞬も覺得とて紙門を圍て退る。灘藏時沈吟と那陀と花酒の奇
 特の目前主も家謀も仰及て死するの果あるも然とて塵をのり下され殿の恩顧
 程もろく。船藏途を歩迎て母中の甘く行る。始末真の心をはぐ。女伴とわが来上
 殿の口々にせのひひ。人敷かこつてゆ。その折小をさうと俺們兄弟先進と。那主従不
 索も穢んか。備醒うとも踏雲氣だ。その誤いふと耳は示せ。船藏連の不領たてと。の
 用心尤より甲夜より曇り。天霽れて月鮮明。其焦火も。こも便あり。今と。咱們を
 走一走。鄰村まをてて末て。臥房小。心どけ。この草鞋と。穿着て。東と投て走
 け。徳而妙算難藏も。柴折焼て茶も煮沸。物片も。竹筒と取て。賓客儲の鹿戎
 掃除も果て。候程。庭の草葉も。集く虫の露も。声の肌膚。実ると。暁方。かか

随の猛可さ。人馬の足音器械。命を許すの士卒。前小立。後も備て馬の足撥
 と。め。い。は。あ。る。は。い。別。人。も。当。国。郡。領。千。葉。小。争。嵐。但。見。這。日。の。打。扮。へ。萌。葱
 感の身甲。小古金禰の戦袍。輪鐵入。梨子打鳥帽子。黄金製作の太刀。踏。南
 部栗毛の三歳駒。雲珠鞍指と。優ふち。乗。馬。駒。樹。も。意。氣。揚。々。と。柴。門。近。く。ま
 程。小。案。内。と。立。る。船。藏。へ。一。反。ぶ。る。那。方。より。先。走。り。之。遠。く。折。戸。と。推。開。せ。母。上。よ
 大。哥。も。快。出。殿。の。渡。を。の。り。と。呼。ぶ。声。小。妙。算。ハ。灘。藏。と。共。居。慌。忙。と。迎。て。折
 戸。の。左。右。小。平。伏。し。登。時。兼。嵐。の。究。竟。の。士。卒。四。五。十。名。小。女。弁。の。四。方。に。捕。圍。せ。馬。乗
 故。ち。と。悠。々。と。正。屋。到。上。座。多。登。案。尻。も。ち。楓。と。物。具。も。老。當。近。臣。齊。一。左。右。の
 坐。列。す。悠。り。一。程。小。妙。算。の。跡。小。跟。蹤。裡。面。入。て。兩。個。の。見。子。共。侶。小。さ。る。拜。謁。を。兼
 嵐。遙。小。を。之。當。庵。の。女。僧。妙。算。若。近。う。と。招。け。と。招。け。と。色。を。て。あ。ら。う。と。藤。美。美。と。却。り。去。る
 南方の孫將新田貞方。其妻。小陸。奥と。没。落。早。う。追。捕。も。之。と。公。也。他。之。幻。術

あざりて。水とられ。水も隠れ。火も遇へ。火も隠れ。勢の討ちと殺脱て。出役定るる。すま。あはれを捕らぬ。のり。又又負方の。相従ふ。一個の猛者あり。畑六郎二時種。是より。亦その勇力世に捷なり。且。刑姓も長たれば。是た久く。然るも。捨措。たぬ。只是。國家の患多。あざりて。室町録。倉兩御所の。大に心安。自ら方を。捕。捕て。まわら。さる。あはれ。勸賞乞ふ。依るべ。とい。嚴る。あ。下。知あり。兼。流。昔。も。の。年。來。鎌倉殿の御恩。よ。父祖の。舊。領。を。相。續。あ。且。宿願。も。あ。る。と。日。夜。肺。肝。を。推。進。す。稍。計。畧。を。得。り。執。權。憲。定。入。道。より。告。免。許。を。稟。て。兼。胤。後。世。の。企。あ。る。と。都。鄙。遠。近。不。流。言。せ。し。那。負。方。を。孤。城。下。に。輒。く。誑。引。を。ん。為。り。あ。れ。は。尋。常。の。隊。配。も。捕。籠。て。を。生。拘。り。と。做。さ。る。數。百。の。運。兵。あ。る。も。他。又。例。の。幻。術。も。脱。去。さ。る。あ。の。故。左。左。右。右。の。又。思。慮。を。回。ら。ず。あ。家。も。昔。く。修。院。々。花。酒。の。一。方。あり。此。は。是。唐。山。宋。の。商。船。を。ける。宋。兵。と。喚。れ。の。小。松。氏。大。臣。

重盛公不献り。奇方人。勿論。狐狸。毒蛇。神通。不思議の。れ。と。公。と。の。件。の。藥。酒。と。後。醉。て。睡。不。就。く。た。心。神。遂。に。亡。失。し。日。旦。夜。の。日。と。麻。考。ま。解。藥。を。用。ひ。づ。と。死。へ。醒。ぶ。と。死。さ。る。壁。に。那。劉。妻。石。が。中。山。日。の。酒。も。捷。り。た。然。れ。へ。又。宋。の。時。牙。人の。旅。客。も。飲。み。也。瞋。眩。を。原。其。の。間。射。殺。し。と。東。西。の。果。り。と。汗。流。り。酒。の。循。る。と。速。也。飲。む。の。卒。に。倒。れ。も。後。時。を。殺。さ。る。と。醒。來。え。と。急。に。憶。ふ。院。々。花。酒。の。それ。似。たる。も。睡。ぶ。れ。の。毒。循。ら。下。へ。毒。の。循。り。後。に。醒。さ。る。あ。と。右。如。し。是。の。捷。れる。所。軍。陣。小。要。の。死。り。も。家。の。行。り。も。如。し。道。衛。院。此。死。時。小。妹。婦。玉。若。深。る。先。祖。千。葉。介。平。朝。臣。常。胤。主。と。浦。介。義。明。上。總。介。廣。常。等。不。勅。命。と。下。野。州。奈。須。野。の。狐。を。射。獵。せ。あ。い。と。重。盛。公。竊。ふ。と。先。祖。を。側。に。招。れ。近。づ。と。和。殿。奈。須。野。に。到。り。折。九。尾。の。狐。が。人。の。變。と。障。耳。を。微。き。と。見。え。その。機。も。多。く。猜。し。る。便。點。と。て。這。院。々。花。酒。を。飲。み。と。覺。さ。る。と。這。藥。酒。は。傳。さ。る。

とく傳來效驗鮮藥の方を具ふ傳授しよし。今に至るまで奇方之家の秘書
 とく相傳せり。あつての比禁獄の者一人小件の酒を飲りて果否を試る。傳
 小弥増て経験右神妙を信れ亦那貞方小這藥酒を飲りて隱形五道の術を
 ともを施す由きて搦捕れんと疑ひ。然れば旅客の立寄る客店酒茶の坊費
 們的に神社佛閣に至るまで計策を御下し。訪像を引合へ。猶貞方とてさるる
 便點を以て這藥酒を薦めて睡不就し。許さるせと下知ん。件の陀々花酒一斗小
 機関の醉甯と鮮藥一貼と相添り。そのれ共小邊と置る鮮藥の要は東西
 似れ。倘術で自方のれ。俱飲す。あつて速に救ん為へ介る。當庵の女僧妙
 算母子の原是刑餘のれ。近屬その鏡下。同の目毎小マヌれ。その子灘藏船
 藏と共侶小孤を密計小與りて功を。先人の罪を贖んと願ふ。藥酒醉甯鮮藥
 を預けて絆を。小孤が計で。所違は。新田貞方上従へ。那風声を笑語とく。

果と當所小來る折妙算逸速と見出と。言を設て替引入れ。遂小件の主従小飽
 ま。陀々花酒を薦め酔臥り。輒虜せり。船藏とて。突あは。る。兩度の口
 状小より。詳不知りぬ。その功莫大とて。灘藏船藏が親にけ。荒海鶴九郎有
 其。身後の罪名を削去り。兩個の兒子を召出と。本領を返し。與へ。勿論貞方時種
 等。その身の意中を。諦。み。づ。ら。名告り。り。恥。失錯あ。る。と。ね。ね。の。孤。且。目
 今実檢せん。細り置り。の。小。を。同へ。妙算頭と擡て。真加小餘る。御恩澤。亡。ま。さ。小
 面を起し。親子三人を飲べ。皆殿さ。の。御武徳。然。り。も。搦。獲。か。つ。と。さ。え。る。那。貞。方
 等。主。従。の。荒。る。尼。が。口。車。を。棄。と。虜。小。を。さ。り。の。骨。の。折。れ。る。の。が。既。小。酔。臥
 せ。る。死。の。方。の。の。異。る。ね。の。細。さ。の。目。か。ら。然。り。か。下。知。と。ま。え。と。く。の。ま。さ。の。被。さ
 甚。そ。が。尽。成。と。く。ゆ。り。ぬ。と。の。小。兼。胤。領。に。介。小。小。緊。く。細。め。快。く。せ。と。と。さ。る。な。る。
 下知小従小灘藏船藏を勢を。准備の捕索。近習の杜武者共。侶。小。躬。て。臥。房。小

稠人々黑白由知らぬ負方主と畑時種と引起し索と被けとも俱落々々郷縛采るく
 倒れけり既小と争亂臥房の内小杖入り近習小自燭を揚させ再件の主従を
 引起させてぬとえて寤れれも人品骨柄現自方小相違る薬酒の效驗神妙定
 那幻術も勇力も怖る小足と成れも心を緩さげ術あらん吊りて束させ細轎子這
 臥房まで早入させ主従俱小ら乗せ目と覚るとも醒るとあつと息とも一日も
 留置ん小要る一狐の這首より啓行とあ生拘を鎌倉へ牽りて覺りて夢をわびて
 灘藏と船藏の元と今番の伴小立せん就中妙算が才覚の感する小あまの鎌
 倉小赴き絆の始末とぞえあはる御沙汰の爲に傳達して送漏もあん
 執權同せふとた汝みぐる演説せ營中の首尾宜いべ。信れば汝も推續せ
 希那地へあまのよと雜兵二両名と送と路の案内小せん。あ義もあらん
 と下宿小た示さあ賞感大なるぞりければ妙算灘藏船藏の天中も弁る

心地と異口同音小言受多々鉄以限の多りけり然程小雜兵們的準備の爲小吊
 りて束さる二挺の細轎子と早入ると争亂下知しとそ小自方主と時種を這
 轎子小ら乗せて繋ぐ鎖と握出させ許りの士卒小成りし。鐵奴がそと居
 馬小囚りとうり乗れ荒海灘藏船藏の近習の中小立難りと馬の左右小謀添ふ
 たり。隊伍紊さき齊々と徐行く方の山峽小横雲の朝出立彼誰時の風戦庭の
 小草と折布と。時目送る妙算のこの為小けの起行小心のそりけり原も這
 妙算の良人小ける。荒海鱈九郎有甚小亦足千並赤の家臣小て千葉郡の眼代
 する。邦智會小林の墨中へも年未私然もるけり。民の爲小嗽訴せられ罪良脱
 る小辞る。久く禁獄せられ獄舎の中を身まらけり。あ故小その妻と面小
 荒海灘藏船藏の城下と追放せられも他郷へ出るとんされ放免の正も
 封内小置れり。あ戦國の小習也と虚実と外へ洩さ下とて是より以来母子



夷人傳記 一冊卷二

川

有田



あつれ居野のつとまき
護送生虜静亂
赴鎌倉
あつれ居野のつとまき

車

有田

三名身の便着るるるる難藏と秘藏の人の為馬と追ひ又川舟を漕ぎどこれ
 それを備ふ者稀るれ果に博徒富居と僅小口を飼ひけり又その母親の女僧
 の妙算と法名と福草村の禰小る其弁と締む托鉢一々餓小死んと欲せし
 鰐九郎が非義我よりいさむく妻の助言よれり。徒然新尼妙算の鰐九郎より
 心ざるのいとあそろしえのまればと。里人們比皆憎てのい合まどこの内の施まふ
 冥くらぬ妙算の困窮のいとせん術をりけり。余るふ這妙算の原是似非
 巫の女児ふ。婦女子小半る小文才あり。あそと幼稚の時より。親の生活おまをりけり。
 陰陽説相卜筮の趣を見熟聞熟するけり。記意も人小捷れけり。今お至る
 あれを忘れ人窮れ邪念起る。凡浮世の習俗る妙算の苦死随ふ年来
 念下は観世音より夢想の示現を蒙りたると説唱て。あひ起せ。銭下と生活
 せま欲て初程の街衢小立辯お任人の歩を駐せ。その吉凶を占ひ。信まふ

の信おぬあり。信まふのの魅されて。當らげるとさる。いのははは笑ひ。里人も新走り
 奇と好む見識おななく立ち。世評高き随ふ妙算の又街衢小立。日毎
 巷小在る。その占の行る小。難藏秘藏も母の庇。身の皮をのぞき
 る。悠り一程。當国の郡領千葉介兼胤の年来鎌倉出仕。侍所別當補せ
 られんと望み。左右の障りあり。その宿望を遂げ。小貞方二を追捕の。京
 鎌倉より下知せられ。搦捕てま。さる。勸賞いよ依るべ。との嚴小。さる。
 貞方主従。誑引よ。虜おせ。その功も。倦宿望の成就。と。思と。却鎌
 倉密訴と計策と献り。兼胤叛逆。菴城の趣を詭唱。近国から流。竊小
 家傳の薬酒と醸して。客店その餘も坊賈の計策と示。件の薬酒を
 預措く折妙算。と洩す。忠節の密訴あり。と倡て。千葉の城内。推参。
 賤尼の亡夫の罪。ふ。て城下を追れ。の。殿の。を。身の付とえ

去推て忠告あるをその所以箇様々々色に錢下のゆを為体と演述。信れ客店酒肆
の申捷りと賤尼が茶舟の如く衆人聚合所なり。是這回の密策ヲ預とせあつた。拙見
藏船藏船と共侶日毎の群集心どけ。自方這地來せん。術計を施す。藥
酒と薦めて。虜ふとせあつた。尚功成らば見子も召還させんと。只願願ひも
とせえあげたる思慮口才。女流なるも。夏を成せ。面魂をえられ。兼胤則その乞ふ。随自
方主従の訪像と藥酒を餘の東西をも形のどく取らせ。妙算の又その外。新田義
貞下の位牌を造り。仙回置んと請ひ。その議も亦。われ兼胤又件は位牌。口色を
着て造り。一。竊の妙算を取らせ。信而兼胤と妙算が秘計不幸。小。七。秘。然。由
名將勇臣の運の窮るといふ。果敢る虜ふせられ。薄情。り。け。る。あ。見。畢。竟。自。方
主従の歸倉へ牽りて去れて。後の話。説甚。麻。を。や。そ。次。の。卷。小。解。分。は。を。聽。ひ。に
開卷驚奇俠客傳第一集卷之三 終

分金

久呂可輪

幾無知矢無

開卷敬馬奇俠客傳

第一集卷之三終

